人御巻十一番

三

内閣文庫
和書
類 三二四六九
続 三九二
冊
架 一之
函 一五二

内閣文庫
番號 和 325659
冊數 394 (331)
函號 152 121

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

元禄元辰年十一月吉日

小野又兵衛言廣組頭

御番水野周防守組 三宜俵 小野九郎兵衛長勝

桐之右御番

長勝弟大坂の警衛より参勤いたし

享保六丑年三月廿日小日向の邸

於火ようかわ

享保九辰年六月七日辞入能勢出雲守

支配

享保十巳年二月十七日小日向の邸

於火ようかわ

かくまは三月分金三十両宛ニ
享保十五戌年二月六日死六十七歳

元禄二年年二月廿六日

御番衆野間治郎組 御番衆小普請大久保玄蕃氏組
二百俵 弾尾平兵衛幸道

同年秋伯耆の騒動に参り
元禄六酉年夏二条城の番に参る
元禄八亥年巳谷大蔵町まで見廻り
居御地乃地とする
元禄九子年秋板城の騒動に参る
元禄十二卯年夏二条城の騒動に参る
同年一統の御救に金三十両宛

元禄十五年十二月十二日死五十二歳

元禄二年閏二月廿六日　門京市市兵衛長男願

小姓番　小姓番　御番水野周防守組　番頭　門京七郎兵衛

元禄三年十月二日死二十九歳

国立公文書館
National Archives of Japan

元禄四未年十二月二日

大坂御蔵奉行勝次郎兵衛正勝組頭

御番水野周防守組 二百俵 勝平之助正甫

後昌高 十四俵二人扶持 後金兵衛

元禄八亥年正月十二日廃止ニ付

元禄七戌年 月 日 昌高

正甫京大坂の家屋敷の事

元禄七戌年 月 日 昌高

十四俵二人扶持 元禄八亥年 月 日 昌高

廃ス

宝永四亥年三月十日駿府御役所奉行

同年七月廿八日御服黄金一枚時服二領

宝永七庚寅年七月八日御書院番を元のごとく駿府の御番仰付られ候ハ元禄六年に普請奉行

享保元申年七月十日大坂御目見

奉行

同年　月　日御服黄金一枚時服二領

享保十一年十二月二日大坂御役損奉行

享保十六亥年三月二日於大坂官舎

死去十七歳

心甫ゟ髪を授別申寺町

福泉寺へ送る

元禄巳未年十二月二日

御番水野周防守組　小十人組　井戸伯耆守勝重養子

二百俵　井戸伯耆守　英弘

後二百俵十口　改　伯耆守

元禄丈申年正月廿二日番衆ニ加ル

英弘京大阪乃警固ニ罷登ル年ニ付

宝永三戌年十二月廿二日隠居ニ付二百俵十口

先生の二百俵ハ、〻奉る

宝永丈子年壬正月十二日新御番七左衛門組

元禄巳未年十二月二日

道奉行佐橋内蔵助佳化二男勉履

左御番衆鈴木周防守組 二百俵 佐橋左源太佳周

元禄壬申年正月廿八日廃米二百俵

元禄壬申年十一月九日郡左衛門任

新御番神尾

元禄七甲申年三月十八日　松平出羽守家臣勝田

元禄二己巳年十月九日辞目　元禄之間御番　小普請内藤上野介組

御番水野周防守組　百俵古　松平安房守家臣

後二百俵　改　甚助　幸手次

京守家大坂の警固馬より年年

元禄八乙未年十二月廿二百俵を加

元禄九丙申年　元二百俵老近の十口八人なる

元禄十己巳年六月十日本所撞鐘

ゆえ居郷の地に当仕まつる

正徳二辰年十月朔日辞　松平主水改組

享保四亥年八月二日為内藤家女
文配

享保十一年丙午年正月廿日西丸小十人
山長右衛門組ヘ入

元禄丙申年十月十日　大長助義昌四男

元禄丙申年九月四日被召御近習番御近習番

右御番本多彈正少弼組　三百俵　大長金右衛門重英

重英京大坂の警備ヘ罷越候

元禄十五年壬午年三月廿九日辞職　井戸對馬守組
享保四亥年八月二日為有馬内膳支配
寛保二戌年十二月二日死

元禄六癸酉年二月六日

河野弥右衛門通長老願

元禄己未年七月廿一日家督

小普請役田河内守組

御番本多彈正少弼組　五百石　河野新左衛門通昕

元禄十己巳年九月七日大御番組願

通昕京大坂の警備より帰府

元禄十五年壬寅年閏六月八日坂城の

御番より帰府白浪十枚時服

二領賜あり

宝永二酉年夏二条城の番より帰

宝永五子年秋坂城の番より帰

宝永七寅年十二月十八日辞入相家
伊豆守組
享保巳未年八月二日為金田周防守
支配
享保十七子年十二月十日致仕
享保十八丑年十二月十日死

元禄六酉年二月二日
白井平蔵久俊跡願
小普請大久保玄蕃允組
元禄丁巳年月日
御番衆多賀谷組五百石
白井平蔵勝昌
故平蔵
勝昌永大坂の御番衆なりしが
宝永元申年まて御番なりしなくして
宝永元申年八月二日大坂御城本奉行
同年十月十五日御供奉金一枚時服
二領
正徳二辰年十月十日死なりて

拐帰者を獄
同年　月　日御服部金一枚賜服
二度
正徳元年　月　日御役を奪ひ
小普請より乃ち大久保淡路守組へ入
正徳四年三月十日評定所より出て
大坂の地役を勤ゝ来る法乃
事なりしよりて彼地乃
町人商地人等所〻事共有
りしにより厳科に處せらるへき
處寛宥の御さゝを以て御免明る
乃ち御役を奪ひ蟄居に妹老女

絵師重武役を勤ゝ来る所
〻ゝ町人すゝのゝ制止する乃
を音と絵師同〻傾城町へ通り
そゝと役をもと美者をゝ免
重武乃罪科に付て町奉行
ゝすゝにて死罪に行なる
乃ち御役丹波守公書役家
絶て当石を収る

元禄六酉年二月宿

小普請内藤上野介組

御番本多弾正忠弼組

三百俵　水川清市郎

元禄六酉年二月吉日　仮田弓鷹　有清亜願

元禄五申年七月九日家督　小普請　仮田河内守組

大御番　本多弾正忠殿組　言葉　仮田弓之助有治

宝永三戌年七月廿日　有治京大坂の宿番ゟ帰ると申ス

新御番　松平主馬組

元禄六酉年二月百

駒井源蔵勝則養子

延宝七未年七月九日病死

小普請内藤上野組

御番衆多賀弾正小組 二百石 駒井作蔵貞植

元禄十丑年七月廿三日乱心自害

貞植家大坂の家来なる者

貞植妻時姫 妻女子藤

と屋敷内に隠れさせ

失れまい狂乱なる極て手家中

にて二百石を収らる

元禄六酉年二月晦日　山田奉行　亦正賀

貞享元子年七月十二日御番　小普請内藤上野介組

大御番本多弾正忠組　二百俵　山田才助　亦元

元禄十巳年巳月十二日拂方御納戸　亦元京大坂の家来より来る

元祿六酉年二月六日

寛文十二子年　月　日　御番本多彈正忠組　二番長　山本加兵衛久明　山本加兵衛久茂組頭　寄合

久明ハ父久茂跡御小姓人
ゆえ召出る
大猷院殿の御代より右番さま
を御ゆえ世々代々子
久明嗣家合席ゆ列す
久明系大坂の警衛ゆ系る

元祿十二卯年三月十六日寄合

同日家業ヨリ日比ヲ経テ御番ヲ免サレ家合の
ヨリテ御番ヲ免サレ家合の
列ヨリ修ヘ〳〵と仰あさる
元禄十巳己年三月廿日死六十巳歳

元禄六酉年八月十日　江馬平蔵成次相願
貞享巳卯年七月十日歎　桐之間御番
御番本多弾正忠殿組　三宝俵　江馬主税雅次
故平蔵
雅次京大阪の宿番ヨリ年年
勤〳〵
享保二酉年　年寄二年藏の勤番ヨリ
年寄四羽北氏の年宿番ヲ
巳月八日伏見ヘ年寄十八日
御国院君紀州ヨリ下ラセ給ヨリ
御供ヲ勤発又月朔日江戸ヨリ

若干の日数にて無事に
帰府なされ白銀拾枚
を賜る

享保三戌年十二月朔日御弓矢鑓奉行
享保九辰年七月十日御役被
仰付

享保十二未年八月十日寄年
日光の御供を命ぜられて
翌の申の年春白銀拾枚を賜る
正月御供に随ふ

享保十四酉年十二月十日死六十二歳

元禄六酉年十二月九日

大御番本多肥後守組之奮忠親勤
大御番本多肥後守組二百俵 浅井指十郎房忠
元禄七戌年正月廿九日厚恩二百俵
を賜る
後源篤

元禄十二卯年三月廿八日 邪宗任 桐之間御番
房忠京大坂の警備を勤
同年八月十日小普請小入られ
水野長門守組に入
宝永元申年六月十日元組大御番

国立公文書館
National Archives of Japan

大久保淡路守組へ帰番

元禄六酉年十二月九日

小普請方坂本成方組虎之助忠政担

大御番一柳左作守組源左衛忠次担

大御番本多弾正少弼組　二百俵　大久保源之丞忠房

元禄七戌年四月廿九日病死二百俵

ゟ

忠房弟大坂の陣ニ馬ゟ落る

元禄十二辰年六月廿六日　弟　住　薛八郎部

丹波守組

宝永二酉年七月朔日隠居二百石

ゟ

その二百俵八つゝ奉る

享保巳未年八月二日為永井廣内
支配
享保十九寅年六月廿一日致仕
宝暦巳酉年閏廿二日死八十五歳

元禄六酉年十二月九日
右御番池田帯刀組友三郎ヘ養子
右御番本多彈正少弼組二百俵 渡邊友之助和
元禄七戌年正月廿日廣業
二百俵ヲ賜ハリ
元禄七戌年十二月朔日 邪魔ヲ任 御膳物奉行

元禄六酉年十二月九日

御番奉行弾正少弼組 二百俵 天野豊之助正隆

御腰奉行 天野豊之助正春 勘定

元禄七戌年正月廿九日 廩米二百俵

正隆ハ勢州ヨリ京大坂の警衛を命ぜらる

元禄八亥年七月廿日 部屋住 桐之間御番

同年十一月廿三日御近習番

元禄九子年三月廿八日御小納戸

元禄十巳年四月十日 郡代任 死

元禄六酉年十二月九日

大御番本多彈正少弼組 二百俵 牛奥藍五郎昌之

御腰物奉行牛奥藍五郎昌信惣領

元禄七戌年正月廿九日廃嫡二百俵を

除き

昌之亦大坂の部屋住より年寄

享保二戌年十月八日 郡代任 死

元禄六酉年十二月九日

御番本多彈正少弼組二百俵　青木忠左衛門義久

御天守番之弘吉本多高義家組

後志摩御

元禄七戌年正月廿九日廣瀬二百俵

元禄八亥年十月廿一日　邪魔任　桐之間御番

同年十一月廿七日御近習番百俵を

加へ九二百俵

元禄九子年正月廿八日　邪魔任　元組大御番

本多彈正少弼組へ為番

元禄六酉年十二月九日

御番本多彈正少弼組二百俵役料傳蔵某

御代官役料勘蔵勝正兵衛

後二百俵　後格蔵

元禄七戌年正月廿九日廣恵二百俵

となる

傳蔵某家大坂の常番つゝ事

あり

元禄十巳年十二月十二日傳蔵二百俵

乞返の二百俵ハ返ル

辞ハ松平信豊寄組

享保巳酉年八月二日為松平常乃支配
享保丙子年十二月七日致仕

元禄七戌年四月十一日　松平九郎右衛門忠員跡目

延宝八申年九月七日遺領元郎小姓組桐之間番

御番本多彈正少弼組　忠倶　松平典十郎忠義

元禄十丑年三月廿八日辞八村越伊豫守組

元禄十一寅年七月晦日病死忠倶

と届出ること仕り候の処

のうちうそ忠倶下さる

元禄十丙寅年十二月十八日致仕

享保元申年七月廿六日死

元禄七戌年閏廿九日　加藤式部少輔景利養子

元禄二年　月　日御目　桐之間御番

大御番本多弾正少弼組　二百俵　加藤孫左衛門忠景

宝永元申年九月廿六日死

忠景兄弟大坂の御番ゟ参る事なく

元禄七戌年閏六月九日　雅楽田平右衛門定養子

延享己巳年七月廿九日於稽留　小普請　元御旗本藩　長郷丹波守組

御番奉行　二百俵　雅楽田玄助憲高

憲高系大坂の宿屯つゝ者の事　改　右平

元禄十己巳年十月廿七日内灰宿新
屋敷ゟ居屋敷の地へ移る
享保十己年二月十日青山の火災
ゟ居屋敷焼失ゟ移る
享保十一丙年三月廿七日小金御鷹の

時小八郎男之藏憲宗を歩行
智子より出す
享保十六戌年七月十九日辞八青木
總殿助支配
寛保元酉年十二月十日死八十八歳

青木八十郎信定養子
桐之間御番
元禄七戌年六月廿六日
延宝六巳年七月十二日番
御番衆多賀正弼組百三十俵青木平助信之
後二百俵
元禄八未年十二月廿六日二千俵を
加へ行ひ凡二百俵
元禄九子年秋被職の結果よ為り
元禄十二卯年十二月十七日死

元禄七戌年六月廿六日　曽雄次郎左衛門安治勉願

元禄六酉年七月十日家督

御番本多弾正忠殿組　百五十石　曽雄次郎左衛門元之　桐之間御番

後二百石内五十俵

同年十二月廿六日五十俵を加へ給ふ

凡二百石

元之京大坂死難の者なり

宝永二戌年七月　白鳥八郎平兵衛組

享保巳未年八月二日為安家立願

支配

延享三寅年十月廿六日死七十八歳

元禄八乙亥年六月朔日　中根治部卿正安養子

元禄七戌年七月十日薨　桐間御番

御番本多弾正少弼忠平三宜長　中根金左衛門昌長

昌長京大坂の家来なり元禄十四年秋坂部の所領なり

しに病死

元禄十六未年六月十日於大坂城番死

二十八歳

昌長ゝ骸を大坂上町浄照寺

小送る

元禄九子年六月廿五日　青木氏之帯義弟勉願

大御番　本多弾正少弼組　帰番　二百俵　青木忠之　後忠節　義久

宝永三戌年六月四日　邪宗大坂の宿主より手引

享保元年八月二日　為金田周防守　任　辞　大坂摂津守組

支配

元文二年六月二日　家督　旨石

乾坤の二旨俵八斗一俵

寛延二巳年八月十二日　死七十七歳

元禄十二卯年二月十日　稽古市蔵　泰重如願

元禄六申年七月九日家督　小普請松平[illegible]組

本所番町多賀谷小弥組　八百石　稽古織部泰該

泰該京大坂の留守居を勤〳〵

享保十六亥年十二月十二日死

元禄十二卯年二月十日　飯倉伯耆守定吏組頭

元禄巳未年七月廿一日隠居

小普請左京亮玄蕃頭組　飯倉伯耆守高寛

故宗春

御番衆多弾正弼組　六百三十表

高寛京大夫殿常憲様ゟ御番衆

御番衆

享保七寅年二月十六日大御番組頭

享保八卯年　月　日二条城の

常憲様ゟ御番衆御暇白銀十枚時服

二ツ被下

享保十巳年八月十日辞　松野八郎右衛門

支配
享保十三申年十月九日致仕
寛延元辰年八月十日死

元禄十二卯年二月十日　清井忠三郎元詮養子

元禄六酉年十二月十日襲　小普請組西河内守組

御番本多弾正少弼組　清井忠三郎元智　故忠房

元智系大坂の家系の事
御
正徳元卯年基二系協の部屋より
分り家別を設む
享保二酉年基二系協の護屋より
分て家別を設先系小系にて
其拂後より候一旦の

享保二戊年霜月
八日伏見へ参り
淨圓院君紀州より
とむらひ参らせ同月十八日
より御道すがら
なりて廿月朔日関東へ
同月九日御家の事より
として白銀
享保六丑年六月廿十
日より
黄金
享保九辰年七月廿一日大坂御暇之奉行

同年十月廿八日御暇黄金一枚
時服二

享保二十卯年
永見新蔵支配
元文二巳年二月廿
刺
延享元子年十月九日死七十

国立公文書館
National Archives of Japan

同年十二月十二日布衣者ども免
さる。
享保十一年　年齢百九七十七歳

元禄十二卯年二月十日　朝日忠三郎近貞歳
貞享二丑年七月廿九日番　小普請大久保玄蕃組
大御番本多弾正忠勝徳組　朝日十三郎近房

同年夏二条城の番重なる者ども
今年正月廿日父方代役番大御番
三枝能登守組川庄兵衛二条
城の警固なる者ども或は免ぜられ
一明の日相州小田原の驛にて
狂疾起て相番二人なる者ども
よりて江府の吟味

て同月廿二日蔵人所編旨を以て
けらるゝハ近衛二条殿より
所々江府より所ハ相違を
止められ格式作〻と
作出さゝ又月〻ゆるさる
同年九月十日御救金を取る
も〻作出さゝ十月百金六十枚を取る
宝永元子年正月十日新御番組勢
市十郎組

元禄十二卯年二月十日　胡紫家嘉真寅勤

元禄六酉年七月十日御目　小書院長弥丹波守組

御番奉多弾正忠組　二百七十石　胡紫家嘉真甫

宝永二酉年十二月七日於二条城左番死　真甫京大坂の宿出るよりまる

元禄十二卯年二月十日　深尾八左衛門元重御願

小普請水野長門守組

貞享巳卯年十二月九日晦日

大御番本多弾正忠殿組　旨ニ付　深尾新兵衛元房

内百俵

元房系大坂の警衛に参り

宝永二戌年十二月廿日大坂御番奉行

宝永巳丑年四月十九日大坂へ参り手

〜て別紙のとゝ〜免さるゝて

松平弾正忠殿組へ入

享保巳丑年八月二日為金四周防守

支配

享保九辰年十月九日元組大御番
廣川下総守組へ帰番

元禄十二卯年二月十日　服部左馬之助重昌也願
小普請地田河内守組
元禄巳未年十二月十日御目
大御番本多彈正少弼組　二百俵　服部百助昌賢
内二百俵　故長義
享保元申年五月二日新御番竹本左伝守組
昌賢系大坂の者也ゝ年ゝ事ゝ

元禄十二卯年二月十日　　拾万次郎ノ右言如願

元禄五申年　月　日家督　小普請松平主水組

御番本多弾正忠組　三百石　拾万次郎信包

宝永二酉年七月十六日死　六十一歳

信包系大坂の家臣ゝ多ゝ

元禄十二卯年二月十一日　戸田与次郎政勝知行

元禄七戌年十二月十二日付　小普請松平重年改組

御番衆多賀谷組　四百石　戸田左近政武

政武京大坂の番頭なり

宝永二酉年六月辞し松平重年改組

同年甲州乃至伊那郡なるべし

ゆゑ〳〵知り難し陸奥のうちにて

乃ち

宝永六丑年二月十二日死

元禄十六年 癸未 閏月十日

村上宇兵衛清光養子

元禄十七甲申年十二月廿六日 小普請材木組伊豫守組

大御番 本多彦四郎組 七百石 村上弥左衛門清胤

改 九郎

清胤家大坂の家来より来る事

多く

享保七寅年十二月十一日 大御番 二番組

享保六丑年 月 日 二条

城の警衛より来る八丑服白狼

十枚 時服二 と行て 桂屋と 懇意

にて

享保九辰年秋松平飛騨守殿
参り
享保十一年六月廿七日小金
御狩の時より地馬より鷹より
上州の井伯耀通り白き山道
の羽織と着〳〵馬上にて〳〵
勢子勤む
享保十二未年正月廿九日辞入
宮侍七郎右衛門支配
寛保二戌年七月十八日致仕
宝暦八寅年七月廿三日死

元禄十丑年六月十日
役楽長三郎就京養子
元禄七戌年七月十一日
小普請水野長門守組
大御番本多弾正少弼組
役楽長三郎歳雅
宝永三戌年七月廿一日
歳雅京大坂の常番より参る
新御番五屋頼母組

元禄十六年 癸未 十月十日

太田助十郎 重堅 治男 要貞

元禄十二卯年十二月十日家督

小普請 濱口孫津守組 昌十俵 一年宮年

太田基祐 正寛

正寛系大阪の御番を勤むる事十六年にして
正徳元卯年夏京都の護衛を勤むること
一とせ十一月朝鮮使来聘の本願寺
にて饗宴を行ふ事あり配膳の
役をなす孫舘小姓にて登城日
ありて奥へ入る外使の宿舘へ参り
配膳の役小使一人にて白銀一枚を

行る
享保二乙酉年五月二条城の警固の為り
明日
享保二戊戌年正月家重公と〻に
浄円院君紀州より関東へ〻〻と成
行る御婚礼の事有り御饗
館の饗応すへき御定り同月八日
二条城へ〻〻の驛へ御出
侍十七日より御奉行へ〻〻
江府へ〻〻り〻〻后姫君の事
別而りとて自筆被成
享保六辛丑年六月廿十日より
石垣より欠る為として黄金三枚を賜る
享保十一丙午年二月廿七日小金御猟の時
歩行難渋の為なり
延享元甲子年二月十日老僧褒賞黄金二枚
入長谷川久之丞支配
宝暦元辛未年九月二日死七十七歳

元禄十五年閏五月十日　本田友十郎ニ信義子

元禄十二辰年十月番頭　小普請左源太玄蕃ニ組

御番衆多羅尾弾正忠勝組　ニ百石　本田藤十郎章胸

章胸京大坂の警固ハ多羅尾ニ申付

宝永六丑年十月廿六日　辞ス　松前伊豆守組

享保巳未年八月二日為永井宮内

支配

享保九辰年十月九日元組ニ御番衆

下総守組ヘ移ル

元禄十丑年年五月十日　今村要蔵　某殿

小普請松平[illegible]組

大御番本多弾正少弼組　世話役　今村源太郎　某

拙者儀某家大坂の家来[illegible]事

為[illegible]

享保七寅年正月二百信州に所山境

論所検分御用を命ぜらるる旨御服

黄金二枚時服二を[illegible]十月十日帰て

相済す

享保八卯年三月十日[illegible]

宿直上の褒賞なるにより金
一枚を賜る

享保十巳年三月十八日　御番八番組改

同年同月廿日二条城の宿直より
帰宅の御暇白銀十枚時服二を賜る
堪忍の恩賜なり

享保十三申年秋坂城の警備より帰
享保十六亥年四月　日死

元禄十丑年年六月十日　於流三十郎政博跡領
小書院松平左京亮改組

元禄十一寅年七月十八日晦
御番本多弾正忠組　四百石　於流長十郎政方

宝永元申年六月晦日桐之間御番
同年秋坂城の警備より帰
宝永丑年二月十九日御小納戸
宝永六丑年二月廿百一流免さるる
御書院番松浦出雲守組より入

元禄十四年六月十日　本多長三郎利豊養子

元禄十七甲申年七月九日　小普請本多保之助組

大御番本多彈正忠勝組　二百俵　本多甚平利豊

利豊京大坂の警衛に参勤いたし候

享保十一年丙午正月廿八日　御廣敷番之頭

享保十六辛亥年十二月廿八日　隠居

建部民部少輔支配

寛保元年辛酉七月十八日　致仕

延享二丑年二月七日　死七十一歳

元禄十五年卯月十日　松村佐兵衛時昌願

小書院松平左平次組

元禄二年八月宣旨

御書奉多弾正少弼組　三宮儀　松村久兵衛元薫

元薫京大阪の御番を勤め年寄

享保十巳年七月十一日御書物奉行

享保十八丑年十二月廿日より

勝手次第にて黄金二枚宛ずつ

毎年毎に拝恩賜ありて

元文二年卯二月十五日

養仙院君代御用人
同年十二月十八日布衣着を免さる
延享二寅年八月十二日一流免されて
寄合に列す
宝暦七丑年二月十二日死七十二歳

元禄十丑年六月十日 鴻巣弟三郎友信養子
延享二寅年七月十日隠 小普請水野長門守組
御番本多彈正忠弼組 三百俵 平岩彦五郎正之
正之儀元禄十三辰年六月
十二日死去仕候ゆえ本番平岩を
名乗る
同年秋坂城の警護に参り
宝永元申年六月十一日新御番表坂
九三郎組

元禄十六癸未年閏十月十日　少将忠高卿ニ義絶願

延享八申年九月十日晴

南都奉行多賀弾正少弼組二百騎小普請村松伊織守組

少将源八郎正英

正英京大坂の宿毛ゟ参る事

享保十二申年十一月十一日薨ス　松野帯刀

支配

寛保元酉年十月廿日致仕厚氷と云

寛保二戌年十月十日死

元禄十六年癸未春月吉日　遠友吾之助憲政養子

小普請溝口源次郎組

元禄十七甲申年七月九日隠居

本御書奉多頂戴仕候御組二百三拾石　遠友半蔵則賢

改吾之助

同年秋坂城代結番仕候

宝永二酉年隼人二番組の家督仕候

正徳元卯年隼人二番組の家督仕候

正徳二辰年正月十日青山家の郎

扶仕候

正徳二巳年二月廿九日辞へ松前伊豆守組

享保巳未年八月二日為安藤左膳文蔵

享保六子年六月廿三日致仕
元文二年十二月晦日死八十歳

元禄十五年壬午六月十日　堀内壱馬氏成跡願

元禄二年巳年八月十五日被仰付　小普請奉行保坂玄番殿組

御番本多彈正少弼組二百俵　堀内甚三郎氏張

氏張ハ父甚右衛門氏成ノ家督ヲ受テ
配流ノ刑ニ処セラレシ事ハ氏成ノ項ニ
記スルガ如シ　氏張ハ宝永二子年十二月十八日
同年秋坂橋ノ番ヲ勤ムル事アリ
宝永二戌年十二月十八日　拝領御納戸

元禄十五年卯月十日

小田切加賀守昌近奥書

小普請 佐野長門守組

元禄九子年七月晦日被召

御番奉多彈正少弼組 二百俵 小田切新蔵昌雄

昌雄殿の父昌近貞享三寅年
七月晦日罪有て去彼伊豫守殿
預仕候て我父と罪を連座して
山内大膳亮殿へ預仕候申
候八月廿八日松平左近将監
預替仕候申年六月晦日
父子共に御赦をゆるされ居

正德之已年

昌雄卿大阪の警固に参る三月

享保二酉年

父右衛門され伴平二百俵を賜り
千俵を受くる

三月廿一日辞し大隅肥前守組

年四月朔日死 十八歳

元祿十丑年 年月十日

貞享元子年十月廿日父之罷御預
元祿之年年四月十九日御預御免
同年八月十日彼石衛二百俵を下

小普請水野長門守組

伴平盛幸

御番奉多彈正忠弼組 二百俵 伴平助盛幸

盛幸の父伴平盛兼罷在候
貞享元子年十一月十日水野隼人正
へ預け被仰信州松本へ配流之旨
同所へ参り父先逝を見届元祿
之年年四月十九日御預をゆるされ
八月十日川内へ盛幸と右衛門も原
来二百俵を賜り新番に大御番に下る

宝永七庚寅年十月朔日死 四十八歳

兄孫三郎八父ゥ罷免ありしと雖別業を配流せらるるもこゝを元禄二己巳年十月廿三日死一父八元禄二年正月十三日信州松本にて死一ゥまはそ后堅幸と云者さまし一なり

宝永元甲申年閏十一月

稲葉勘兵衛某二男幼頃

小普請之内孫左衛門組

元禄之間御番

御番之孫淡路守組 壹石 稲葉左之郎某

宝永元子年 月 日死

元子年某郎宝永六丑年

六月二日死一子なくして

家絶て六百石を収らる

宝永元申年六月十一日　多田次郎左衛門尉昌次養子

元禄十一寅年十二月十八日暇　小普請松平[illegible]組

右御番入仰付候旨被申渡　多田次郎左衛門尉昌全

故數馬

昌全京大坂用達罷上候事ニ付

為く

正徳元年二月十一日新御番酒井式部組

宝永元申年二月十日

浅井久兵衛忠親跡目

小普請組津屋周防守組

御番入仰せ付られ候

帰番

二月晦日

浅井治兵衛忠

房忠家大坂の騒動に付き手柄よろしき

為に

正徳元年辛卯二月廿九日大御番組入

同年七月朔日坂城の騒動に付き

手柄に八御脇白銀十枚時服二領

賜はり

享保二酉年隼人二条城の騒動に付き

年

享保四子年秋坂東の洪水

享保四子年十二月廿五日江戸

二十石九斗の二百俵八月

享保八卯年夏二番櫓の借馬

年

享保十一年三月廿七日火事

櫓の時常盤橋より樓の入口を

乗て〻羽織を着て馬上にて

勢子を勤む

同年秋坂東の洪水

享保十巳酉年夏二番櫓の富

享保十七子年秋坂東の洪水

年

享保二十卯年夏番の富

年

元文二年秋坂東の洪水

寛保元酉年夏二番櫓の富

年

寛保二戌年二月廿日御免

同年十二月十八日布衣者を免さる

寛延二巳年四月十八日死八十余

宝永四丁亥年二月廿二日　依田豊後守信澄養子

宝永二酉年十二月二日晴　小普請井戸対馬守組

御番方源清蔵寺組　旨依　依田又十郎信貞

元文二巳年十月八日於二条城番死　信貞京大坂乃警固の手当厳く

信貞の骸を知水通光清寺へ送る

国立公文書館
National Archives of Japan

宝永五子年閏月二百　松平新蔵清昌卿

元禄十三辰年十二月晦日　小笠原松平右京大夫組

大御番小條若狭守組　二百石俵　松平八郎兵衛清定

故　新蔵

享保二酉年十二月朔日大坂御留守之在り

清定系大坂の家督より手之者

享保四亥年三月十二日御服美金

一枚時服二ツ下る

享保四亥年九月十八日於大坂死

宝永五子年正月三日　近衛二位前正長養子

小書院久貝因幡守組

宝永三戌年七月廿七日薨

大御番小條右近将監組　二百石　近衛左衛門正勝

後源氏

正勝系大坂の家中なる由

正徳二巳年十二月十二日辞入　松平伊豆守組

享保巳丑年八月二日為有馬内膳之亮

享保九辰年十月九日大御番小堀

備中守組より入

宝永四子年巳月三日　遠山数馬景瑞養子

宝永巳亥年十一月廿六日　小普請大久保淡路守組

御番医奈良近助支組　二百俵　遠山主馬景明

改国次郎

享保元丙子年十月八日死　年十二歳

国立公文書館
National Archives of Japan

宝永五子年閏月三百　中根主殿正和養子

宝永巳丑年三月廿五日　小普請松平右京亮組

御番小納戸組　二百俵　中根長命憲正

憲正系大坂の家臣なる

正徳巳午年九月廿六日　死三十五歳

宝永元子年閏月三日　赤井六郎兵衛通忠殿

元禄十二卯年七月三日家督　小普請松平[illegible]組

右御番入御作法之通相勤　二百俵　赤井五郎兵衛通

享保十一年二月廿七日小金御鷹の

御[illegible]

享保十一午年　時歩行物頭を勤候

享保十巳酉年六月廿七日於二条城在番死

六十七歳

順通家大坂の家来より[illegible]

順通ら盤を乗り出水通り

光清寺へ送る

宝永元子年四月二日

本村元兵衛　良春　花押

小普請二枚橋守組
再勤
二百俵　本村万之助良士

御書院御番組

同年秋坂城の能番を勤め
宝永七寅年三月十九日御番を御免
なり
享保巳年二月赤坂溜池溜の
郡御用なるように仕り
御所法なるうち

享保巳年十月廿二日辞入有馬内膳支配

享保六丑年二月百姓四人の借地
の願書より始る
享保十六亥年七月十八日死

宝永元子年四月二日　大井理右衛門昌安養子
宝永四亥年十二月十四日家督　小普請に被仰付
御番比蔡右近将監組　二百俵　大井理右衛門昌諸
享保十九寅年九月十日新御番久保弥二郎組　改　長右衛門
昌諸系大坂の騒動より系る事

宝永六丑年閏月宣旨

元方御納戸遠藤小金吾藤原養子

御番衆藤右近将監綱二百俵 遠藤左兵衛尉易儀

改 元御番衆 伊勢守

同年同月廿二日御小番衆二百俵を

以て今年八百俵となり作法を

易儀永大坂の御番より年々

度々

享保十一年三月廿七日小金御番の

時歩行弾正を勤免

元文四巳年二月廿二日御勘定格

国立公文書館
National Archives of Japan

寛保元酉年六月朔日御勘定吟味役
従七位下
同年十二月十九日布衣着を免さる
寛保二戌年十二月廿六日御目二百石
を延の二百俵ハ返上
延享四卯年六月廿六日依願奉行
同年十月朔日御服免金十枚時服一
羽織を賜る
寛延元辰年七月廿八日家督を継て
小姓一組馬代を賜る
寛延二巳年六月十日御勘定奉行
兼日御加恩二百石九百石

同日御帰を掛りを命ぜらる
同年十二月十八日叙爵作法を以て
伊勢守と名乗
宝暦元未年八月十日
刑部卿宗尹卿の家老となる
宝暦十二午年十月十日年六十九歳

宝永六丑年正月宿

左御番士 岩崎守組 新之丞 意信 廿歳

左御番小係右近之丞 組 二百俵 太田宗之丞 某

故新助

同年同月廿二日 厚恩二百俵を賜り

〻〻 八百俵を〻〻給ひ

享保十一年 午 六月廿七日 小金御番の

時歩行撰ミ子を勤む

享保十四 酉 年 七月十日 那波 伯 死

宝永六丑年正月宣旨

御番小姓右近左衛門組二百俵　中村三郎兵衛英勝

前御番組勢市郎組二百俵勝沢四郎

後二百五十俵

同年同月廿二日廉米二百俵を

除き今年八百俵を賜ふ

英勝京大坂の警衛

正徳元卯年九月十二日嘗二百

五十俵を以の二百俵八五

奉る

正徳元年十二月十六日拂方御納戸

宝永六丑年四月晦日

大御番小姓右近太夫組　二百俵　竹内孫惣信秋

大御番右筆山崎寿組　六百俵　信隆勘解

同年同月廿二日廃家二百俵ヲ以ハ百俵ヲ以作ヲ家ヲ
信秋系ヲ以家ヲ相続ス

享保二酉年正月廿二日父失ヒ被れと
形ハ不届ニ付閉門ヲ以ヲ遺跡ヲ
没収ス

享保六丑年十二月廿四日薄入安養寺殿

延享元甲子年九月二日死

宝永六丑年月日

大御番北条右近左衛尉二百俵　御因幡守御信寺

大御番戸田左伯守御信寺組御手御信寺

後二百俵

日年同月廿二日廃米二百俵ヲ賜リ

〻〻八百俵ヲ賜ハル作あり

信寺元禄六酉の年御番ヲ勤る事多く

享保十二未〻〻十二月十二日御番三百俵

ヲ賜ハ〻〻奉る

享保十七壬子年十月八日隠居剃髪

有〻〻明の九日宮中より石塔ヲ英金

二枚を行う
享保十七子年二月廿七日中堂にて
騎射御覧有て褒賞二枚を行う
享保十九寅年二月廿五日騎射御覧
有て明の廿六日賞中より京都にて黄金
二枚を行う

寛保元酉年十二月十九日於二条城在番死
五十二歳

信寺の嚴を京都に送り
光清寺に送る

宝永六丑年正月晦

大御番高木主水正組御番衆重清朝臣

大御番小條右近将監組 二百俵 岡頼常 御重真 後 式部

同年同月廿二日御番衆二百俵を行う
今年八百俵を行う御番を免ず
重真京大坂の御番より年々
二度

享保元年十二月十日 部屋住 大御番組 氏

同年十二月廿五日御加恩二百俵九口扶
享保六子年七月朔日役職の結高

寄ハ御帳白銀十枚時股二ヶ所
享保七寅年八月日付　郡代任　嘗申ス
ヒ[illegible]れて御役を奪ヒ其ノ御加恩
二百俵を収ラル小普請ニ入ラル
安房守殿重胤石州ヘ[illegible]ル青木
舊ノ支配ヲ受ル
享保十七子年十二月二日贈二百石ヲ君
六年二月是迄ノ二百俵ハ返ス一[illegible]
享保二十卯年九月八日死ス年一歳

宝永六丑年正月吉日

大御番小[illegible]ル近ノ支組　二百俵　永田[illegible]御政順
大御番高木[illegible]水[illegible]組七御[illegible]政朝[illegible]
後[illegible]

同年同月廿二日[illegible]系二百俵を
[illegible]ル今年八百俵を[illegible]
[illegible]ル
政順京大坂の[illegible]ヲ[illegible]事
[illegible]
享保二丙申年正月
浄圓院君紀州ヨリ下ラセラル

御代を暫先月寄よ者て
のち自筆数を作り
享保十二未年十二月十八日郡代辞入酒井
小平治支配
延享元子年十月二日酒井三百石
先述の二百俵八反て奉る
延享二寅年六月二日小普請組支配
組頭御役料二百俵を作る
宝暦三酉年六月十二日御役料
二百俵を作る 拠時百俵増なり
安永元辰年四月廿日老辞若金
二枚を賜ふ妻本平四郎支配となる

同年二月十一日死八十歳

宝永六丑年閏月分

左衛番小條右近左組　左衛番片桐与左衛門左組左之丞某代

二百俵　小尾助之進某

同年同月廿二日原某二百俵を以て
今年八百俵を以て仰せ付らる
助之進某京大阪の宿番より参る事
享保十一午年二月廿七日小金御狩
の時より息男義次郎を以て歩行
習ひとなる

同年父義宣流刑ニ處セラレハ
享保十一年丙午十月廿二日 遠藤但馬守 年俸彼百ニ
追放

宝永六年己丑年月日宣旨

御番松平近江守組 二百俵 松平兵部義隆
御番小笠原左近将監組 二百俵 後ニ百俵

同年同月廿二日 廣忠系二百俵ヲ賜リ
今年八百俵ヲ以テ仰セ付ラル
義隆系大坂の家ヨリ来ル
正徳三巳年三月廿日 所目ニ百俵ヲ返
の二百俵ハ返ス

正徳巳年丙午二月十一日 新御番 松平主馬組

宝永六丑年四月宣旨

御番衆御修理近江支配　二百俵　竹内半次正生

後二百十俵

同年同月廿二日御番衆二百俵を
以て召抱ることは百俵を以て
正生に被下
あゝ
正徳元未年十二月二日隠居二百十俵
を近の二百俵ハゝ〳〵奉る

享保十一年寅二月廿七日小金御狩
乃時歩行御供を勤め
元文四申年閏月廿七日清水御厨
在行を兼て表作を勤る
寅十月十九日御具足奉行
宝暦六子年二月廿六日辞へ
地田を賜る
同年十二月廿六日致仕
明和四亥年正月十二日死七十二歳

宝永六丑年正月廿日

御番小姓右近左衛組二百俵 前田孫之御足得
御番稲葉弾正守組孫之御足
後二百俵 後十九歳

同年同月廿二日厩番表二百俵を給
今年八百俵を給ふ作を勤る
定得系大坂の宿番より系る事
為く
享保六丑年十二月廿七日跡目二百俵
元述の二百俵八返す
享保十一年寅二月廿六日小金御狩

享保十六成の時歩行御番を暫免
年十二月百騎入番
支配

元文二巳年十月十六日御番御組

宝永六丑年正月宣

大御番小線右近之組 二百俵 小林弥十郎正桂
大御番阿部志摩守組之内 御正信養子
後二百五十俵
後九郎兵衛
同年同月廿二日廃小林二百俵を以て
今年八百俵を以て御番を仰せ付
正桂京大坂の席番を勤
正徳元卯年二月廿六日百騎目二百五十俵
先近の二百俵八ッ〆する

享保元申年閏二月二日新御番竹本
左衛門組

宝永六丑年正月宿

御番ハ條右近支組 二百俵 大御番ニ成ル 大屋助之丞忠正

同年閏月廿二日廉米二百俵ヲ賜ル
ことし八百俵ヲ賜ル 作ヲ改ル
正輝京大坂の定番ヲ勤る事ハ
享保十一年 年二月廿七日小金御鷹の
時歩行ハ警ヲ警先
享保十巳酉年正月十七日父失ヒ
ことし八百の内閏月ハ遠慮ヲ勤ル

享保十巳酉年八月廿一日辞ス小田切主殿
支配

延享巳卯年巳月廿九日御番戸田
近江守組ニ入

宝永六丑年四月宿

御番小藤右近支組　二百俵　松本伯耆守長
　　後二百俵

同年閏月廿二百俵ニ二百俵ヲ
加ヘ今年八百俵ヲ以ト作ル
宝永七寅年十二月十二日酒井二百俵
乾坤の二百俵ハ返ス

享保十巳年十二月宿　新御番水野
酒井ノ組

宝永六丑年七月宿

大御番小線左近左衛門組二百俵　後二百石内五十俵　遠藤左兵衛尉

同年同月廿二日廉米二百俵ヲ以
今年八百俵ヲ以ト仰セ蒙ル
利貞京大阪の宿ヲ引ク事ヲ
停ル
享保七寅年五月二日隠居願ヒ
二百俵八ヲ離ル

辞

支配
元文四未年八月十九日致仕
同年十二月廿九日死六十一歳

宝永六丑年四月宿

大御番北条右近将監殿組二百俵　大久保御心底
　　大御番頭御心組十人衆利忠也
　　後四百石

同年同月廿二日廚米二百俵を給り
　　　　八百俵を給ふの御を蒙る
正徳元年六月の御番を勤る事有
享保二年六月二日御目四百石
　　この二百俵ハ　　奉る

享保九辰年十月九日新御番松浦
弥市郎組

宝永六丑年四月廿日

右御番片桐主殿頭組弥三郎重栄勤番

大御番小林弥右衛門組　二百俵　小林弥右衛門正栄

同年同月廿二日病死　家二百俵を以て

今年八百俵を以て仰せ付られ

正徳二辰年三月廿日　邪魔仕　死

宝永六丑年巳月宿

御番所御作事方組二百俵　松田源之助殿

同年同月廿二日御番所二百俵を以て
今年八百俵を以て御作事方御
世話仕候方坂の宿番を以て年寄
御ゝ
享保三戌年十月廿九日父先ぬきと
御作事方の科門一代まで八遺跡を
別手

元文二巳年正月廿六日大坂御金蔵より
同年　月　日御服黄金一枚時服
二ツ下ル
元文四申年六月十五日大坂の御金
蔵より御金紛失せし　う八御孔明
の事ありて関東より八木清十郎
下ル
元文四申年九月廿日大坂御作事ハ
御役を集め小普請小入らるゝ
作事ハ小俵彦蔵支配ゟ入
延享元甲子年正月二日京のとく
年始の出仕を免さるゝて出仕す

宝暦元未年八月九日致仕
宝暦四戌年七月廿二日死七十四歳

宝永六丑年四月宣旨

右御番所御修理近年組　二百俵　豊後孫七郎泰基

後日宣俵

同年閏十月廿二日廣米二百俵を賜り

ことし八百俵を賜ふ作あり

享保十一午年五月宣旨

乞近の二百俵ハ〻〻奉〻

泰基京大坂の警衛を勤るの者多く

寛延元辰年八月二日御廣敷番ことし

宝暦元未年五月宣西城の切を勤つ

番乃臣
宝暦二申年六月六日隠入 織田弥十郎
支配
宝暦十辰年二月十日死七十巳歳

宝永六丑年閏月分

右番小姓 御勘定組 二百俵 横井七蔵政蕃養子 後二百俵 後改七蔵 横井忠蔵政種

同年同月廿二日原弟二百俵を以て
今年八百俵を以て作を弟忠蔵
政種家督相続
仰付
享保六子年十二月廿日跡目二百俵
を以て その二百俵ハ返 献る
享保十巳年まて 御書よりけ

享保十巳年九月十一日大御番組改

なるべく勤めしう

享保十一午年三月廿日小金御狩の時地白より軍配団扇を手遠鐙より紫紐赤附る明鐙を着し馬より乗り勢子を勤る

同年七月十日坂橋の結番より手八御帳白銀十枚時服二を賜る

いつも世恩強かり

享保十巳酉年葵二条城の宿番より

享保十七子年秋坂橋の結番より

享保二十卯年葵二条城の宿番より

元文二巳年秋坂橋の結番より

寛保元酉年正月十一日御死去

同年十二月十九日布衣者と成る

延享三寅年八月十一日御先手組

宝暦二申年六月十日

有徳廟の警番を勤る

時服二を賜る

宝暦六丙年十月廿八日御論奉行

明和六丑年六月十日老辞時服二

を賜り寄合に列す

同年十月廿九日死九十四歳

宝永六丑年四月六日

右御番北条右近左衛門尉綱二百俵　河内左衛門尉常記

右御番左衛門尉綱久　右御番左衛門尉常英廻番

辰　五百七十石　　戌　五百

同年四月廿二日庶兄二百俵ヲ以ッテ

ミヽ八百俵ヲ以ッテ御番ヲ勤ル

享保十一年午三月廿七日小金御鷹

乃ト武駿騎馬ヲ勤ル

享保十二未年三月八日御用番七十石

是迄の二百俵ハ之ヲ奉る

延享元子年六月十七日右御番綱久

同年七月朝日坂城の警固を命ぜられ
御服白銀十枚時服二を賜りしかも
恩賜あり
延享四卯年夏二条城の番を勤り
寛延二年辰年妙法院の警固を勤り
宝暦三酉年夏二条城の警固を勤り
宝暦六子年秋坂城の番を勤り
宝暦九卯年夏二条城の警固を勤り
宝暦十二午年秋坂城の警固を勤り
明和元申年壬十二月十九日老職黄金二枚を賜り八役楽甚十郎支配
明和八子年八月十日死七十四歳

宝永六丑年十月廿九日 萩原孫四郎正忠養子
元禄七戌年七月 日 日蓮宗藤田主馬 元藤田藩 西尾隼人 同帝番
御番北条右近左衛門支配 三百石 萩原孫四郎正芳
正芳家大坂の警固を勤ること三年
享保二酉年夏二条城の番を勤り
明の
享保三戌年四月くるりの
浄圓院君紀州へくるるを
御供を四月十七日より警先の月番
江戸へ着し同月晦日御暇

国立公文書館
National Archives of Japan

幸より房ひろして白銀五枚を遣わす

享保七寅年八月廿二日　大御番組頭

享保八卯年　月　日二条の城中

より条目は御服白銀十枚時服二を

賜り拝領も拝恩仰あり

享保十一午年二月廿七日小金御鷹の

とき武蔵国にて地白鳥の大横前の

伊達明徳を着して警固を勤む

同年閏十月廿日死去

享保十二未年十月廿九日死去

宝永六丑年十月十九日　松下甚兵衛氏正養子

元禄十六癸未年十二月十日於横田藩　西尾隼人之助御番

大御番小姓右近之丞組　元横田藩三百三十俵　松下甚兵衛氏廣　故甚兵衛

氏廣名乗大坂の御番を勤め年々

正徳元年秋坂御の結番より年々

仕御番を役を勤免

享保元申年正月六日内蔵寮新

御番溝口右近之上ヶ地二百七十石拝

の地を賜る

享保九辰年十二月二日　御番　巳　番組改

享保十巳年二月十五日二条城の
能場より条目御服白銀十枚時服
二を賜り御暇を賜恩福所なり
享保十三申年秋坂城の能場より
参り

享保十巳酉年九月廿二日辞入福島
九郎兵衛支配
寛保二戌年十二月　二日致仕
延享巳年十月廿日死七十七歳

宝永六丑年十月廿九日　久保源蔵勝宗養子

元禄十二卯年十二月　日於備田陣　西丸横尖之間御番

御番小姓右近享保組　元禄田藩　二百石俵　久保弟力勝政

故頼母

勝政宗大坂の御番を勤る
正徳元未年十二月廿三日辞入朽木周防守組
享保巳年八月二日為離川賀侍従守
支配
元文元申年十二月八日死八十歳

宝永六丑年十月廿九日　　勝井孫左衛門政純跡

元禄十丑年年三月朔日　勝田錦御書院番　西尾隼人之間御番

御番小姓右近左之丞組　元勝田藩二百俵　勝井左衛門政相

政相系大坂乃家ゟ之系ゟ

家ゟ

享保十一年年三月廿七日小金御狩の

時ゟハ息男又次郎光保ゟ歩行跡子

ゟ出す

享保十二未年十二月十七日　郡代在　辞へ宮侍

七郎右衛門支配

享保十六亥年正月十四日父実ぬまと
称し和の科門ハ九郎ハ遺跡を継す
享保十七子年五月十一日死

宝永六丑年十月廿九日　小沢経友助正業四男
寛文二卯年二月二百俵田ハ元高　西丸焼失之間帯番
大御番小線右近之丞組元俵田蔵二百俵　小沢儀兵衛正弘
正弘ハ父正業ハ流ハ後信とんで邸を
正弘弟大坂の御番を勤る事多く
享保十三申年七月廿日辞八青木雷之丞配
享保十八丑年十月廿九日死七十七歳

宝永六丑年十月廿九日　野中三之丞殿　友重殿

元禄十巳年十二月九日　横田市郎兵衛殿　西尾隼人之助殿

市番小姓右近亮組　元横田番二百俵　野中友重政友

政友ゟ曽祖父隠岐守殿重政（後野中三之丞殿）神祖ゟ右近亮ゟ遠州濱松ゟ市小姓衆の列ゟ入る時分ゟ家の勢ゟ武田北条等長とゟ戦て論ゟ討死首を得まゝ一首級を付ゟ夜御前ゟ右近亮て二日月の蒔絵の御盃を預ゟ家の

ゝらるゝを感し給ひて信國の
御脇指をたまはるそのもち給ふ
君を害せし事よりして故に
村よ藝居まる事多年慶長
十一年
神祖都よのぼらせ給ひ還らせ
給ふ時村雨常助を頼みて
密謀一義を融ずして潰れ
拙宿にて御怒の作にのして
重政の影を拾ひ給ひ老衰仕
まるとの事なるやうに驚き
多くを作りのまゝほとなく
死しにまはそ子三郎重次を
召さるんよいとみなるゝてそ
事なく年をつもて涙くして
のちよ実子三郎友重祖父の
志をのを仕宿の所にして遠州
より江府よさゝる事年をへる
思よりて資財ことゝ多沙汰さて
困窮よいたりし事を水府の
光國卿さゝ召さるて延宝元
辰年六月者召さるて彼家臣
列子政友に次男なりしを
貞享元子年三月世音水府よて

三井殿内と云ものと付て云々
〜〜光國卿その上るを聞
〜て害せ〜事を嘆〜石
七ひらまて免されけるよ
櫻田御殿より石生さく
政友系大坂の醫師の事なり

享保十七子年閏六月廿九日辞入 広尾甚助
支配

寛保二壬戌年七月廿九日死八十二歳

宝永六丑年十月廿九日 曲淵又市亟雅出願

元禄十丑年七月十日於櫻田藩 西丸焼火之間御番
奉御番小藤右近左衛門 元櫻田藩二百俵 曲淵長左衛門幸次

幸次系大坂の醫師の事なり

享保巳酉年正月廿二日死

宝永六丑年十月廿九日　蜂屋九郎次郎善留養子

元禄十丑年十二月機田御書院番　西尾隼之助御番

右御番北条左近左衛尉元禄田藩二百俵　蜂屋孫市郎善有

正徳元卯年夏二条城の警衛よりの帰り

正徳元年秋坂城の警衛よりの帰り

享保二酉年夏二条城の警衛よりの帰

享保元年十二月三日　蜂屋孫市郎善有　死

宝永六丑年十月廿九日　大津助兵衛清貞

元禄十丑年正月廿八日横田市郎兵衛
御小姓組　西尼焼火の間御番

御番花茶右近之丞組　元横田藩二百五十俵　大津善之御政勝

政勝京大坂の御番を勤ること
正徳元卯年二月十七日父兵衛
隠居の願ひ申し上げ遺跡を
願す

享保巳年十二月廿七日隠居
支配

享保八卯年六月廿七日死五十一歳

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan